

患者さま、ご家族の皆さまへ

2020年2月21日

抗インフルエンザウイルス薬ゾフルーザ®について

弊社の抗インフルエンザウイルス薬「ゾフルーザ®」について、様々な情報が飛び交い、ゾフルーザが治療効果を発揮しない耐性ウイルスが流行しているのではないかとといった不安をお持ちの方もいらっしゃるかと存じます。そこで弊社から、皆さまが出来る限り不安を感じることなく、医師の指示に従い適切な治療を受けていただけるように、本薬について現状の説明をさせていただくとともに、弊社の見解を述べさせていただきます。

昨年はゾフルーザに関して、12歳未満の小児への慎重投与に関する学会からの提言/指針の発表や、アカデミア発の論文投稿などがあり、その内容が多くメディアで取り上げられました。報道には様々な内容があったことから、ゾフルーザに対する低感受性ウイルス（各種報道では耐性ウイルスと表現）が流行しているのではないかと、という不安につながっているものと考えております。

ゾフルーザは、2018/19シーズンに約427万人のインフルエンザ患者さまに使用されており、国立感染症研究所の調査では、本薬に対する低感受性ウイルスは一定の頻度で検出されたものの、地域的な広がりには確認されておりません¹。また、2019/20シーズンの同調査において、本薬投与前に検出された低感受性ウイルスは、A (H1N1) pdm09 亜型で1株であり、昨シーズン検出された低感受性ウイルスが、今シーズン流行しているということは確認されておりません² ([抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス 2020年2月14日時点](#))。

弊社においても、本薬に対する低感受性ウイルスが人から人へ感染するリスクに関して、昨シーズンから新潟大学を中心に継続して調査を進めて頂いていますが、この低感受性ウイルスが流行しているという事実は、確認しておりません ([2020年1月29日現在](#))³。

ゾフルーザは、A型、B型を問わずインフルエンザに対して、臨床試験で治療効果が確認されており、12歳以上の合併症を併発するリスクの高い患者さま*に対しても、臨床試験において有効性が確認されている薬剤です。現在、日本、米国をはじめとする16カ国で承認され、インフルエンザに感染した患者さまの治療に貢献しています。

また、日本では、小児に関しても本薬に対する低感受性ウイルスの発生状況含め、その有効性、安全性が評価され、国から正式に承認されております。

* 65歳以上の高齢者、糖尿病、慢性の呼吸器疾患、心疾患などをお持ちの患者さまなど

ゾフルーザは、これまでの薬剤とは異なる全く新しい薬剤ですので、様々なご意見、ご見解があることは承知しております。これらも真摯に受け止め、今後も継続的に調査を行い、本薬の有効性と安全性に関する情報を収集し、患者さまの利益と安全性を最優先に考え、本薬の適正使用の推進を図ってまいります。

以上

[お問合せ先]

塩野義製薬株式会社

TEL : 06-6202-2161 (代表)

参考:

1. 国立感染症研究所: [今冬のインフルエンザについて \(2018/19 シーズン\)](#)
2. 国立感染症研究所抗インフルエンザ薬耐性株サーベイランス:
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/influ-resist.html>
3. 新潟大学大学院医歯学総合研究科国際保健分野 抗インフルエンザ剤感受性低下株調査:
<http://www.med.niigata-u.ac.jp/pub/category/influenzasearch/>